

横浜市民広間演奏会のあゆみ 第2幕 コンサートは踊り場で

今回は1967年に「生の良質の音楽を横浜の市民に届ける」と歌手の佐藤美子先生の掛け声のもと集まった音楽家でスタートした市庁舎での演奏会の事始めについてお話しします。当時の様子を名誉会員の小瀬由紀先生がお手紙にてお伝えくださいました。小瀬先生は「市民広間演奏会」の発足当初よりピアニストとして会の発展にご助力下さり、佐藤美子先生の専属ピアニストとしてもご活躍なさいました。

(手紙より抜粋)

～半世紀前のある日、佐藤美子先生のお宅に伴奏合わせに伺いました。そこへ飛鳥田市長(当時の横浜市長)が見えました。市長さんのお話は①野外音楽堂(※1)のピアノはコンサートが夏だけなので、春、秋は使用されない。②市庁舎1階にスペースがあるから、市内でピアノを習っているお子さん達に発表会のようにして弾いてもらったらどうか。というものでした。これに対して佐藤先生は「お子さん達には無理。それよりなかなか発表の機会の無い若い演奏家たちにチャンス。」とおっしゃいました。そして後日、佐藤先生、私(小瀬先生)、朝倉蒼生先生(※2)など何人かの演奏家が横浜市庁舎に集まり、話し合いがもたれました。皆、案内された会場(踊り場!)に驚き、「せめてパーテーションの様なものを置けないか。」「演奏中だけ、人々の往来を止められないか。」などの意見が出ました。そんな中、私はその頃日本では少なかったストリートミュージシャンに興味があったので、「私はそのまま結構。」と発言してしまい、第一回の奏者に選ばれてしまいました。その様子は、翌日の新聞(たしか朝日新聞神奈川版)に取り上げられかなりの反響でした。

しかし一般の人々には演奏に対して殆どリスペクトがありませんでした。演奏中も弾いている脇をそろそろ歩いたり(階段ですから)覗き込んだり、一階フロアにあった公衆電話で大声で話している声も聞こえてきました。～

～張り出した踊り場では足がすくむような気がしました。踊り場の横から見た時、奏者全員が見えるよう、真横に並ばず、少しずらすなど、工夫をしました。～(会員談)

階段で始まった「市民広間演奏会」は、演奏者の苦勞、工夫が活かされ、回を重ねるごとにたくさんの観客に親しまれるようになってきました。ここで10年目1977年に行われた「市民広間演奏会」のプログラムに寄稿された飛鳥田市長の挨拶を抜粋します。

～どうでしょうか、、、このような催しが市役所で開かれていること、、、それも今回で10年目、19回をむかえたということ、、、「役所でナマの音楽がきけるのは全国でもここだけ」、、、、わたくしは、もう、この演奏会を市民のみなさんとともに“ミナトヨコハマ”の自慢のタネとしておおいに喜びたいと思います。～

また小瀬先生の手紙にはこんな飛鳥田市長のエピソードも記されていました。

～市長さんは時折演奏が終わった人達を市長室に招いてお茶を振る舞って下さいました。たしかそんな折、「美濃部君(当時の東京都知事)が東京でもやりたいといって職員を視察に寄越したんだがね。あっちは建物も大きいし、人も多い、ムリだってさ」と少し得意気でした。～

「市民広間演奏会」の発端はどうやら夏しか使用されなかったピアノがあったから。市庁舎にスペース(階段!!)があったから。ということにもなりますね。そしてそんな状況の中、演奏家の熱意と工夫で回を重ね、市民に親しまれていったのですね。ここで再び小瀬先生の手紙を抜粋します。

～何回か演奏するうちに気になることが出てきました。ピアノの音です。時々奇妙な音がするので調べてみると、野外に置かれていたためか、楽器に亀裂が入っていました！それで新しいピアノを買って頂けました。新品のお披露目の際は奏者に選ばれて大層嬉しかった！～

(この新しいピアノは1980年に横浜市制90周年開港120周年記念実行委員会より寄贈され市庁舎舞台にあるピアノです。2019年現在※³)

それでは現在の舞台はいつ頃出来たのでしょうか。市庁舎に現在の舞台が設置されたのは1988年。当時の様子を1988年1月21日発行の東京新聞から抜粋します。

～「市民広間演奏会」と名付けたコンサートは、春と秋に15回ずつ毎週火曜日と金曜日に正面玄関から2階に通じる階段の踊り場を舞台に1階フロアを客席に見立てて開いている。階段では「何かと不都合もある」と同市は本年度、庁舎の一部を改築したのを機会に1階のフロアに40平方メートルほどの広さを持つミニステージを設けることにし、近く工事に

とりかかる。演奏会を担当する広報課は「新しい椅子なども取り付けるので雰囲気盛り上がり、喜ばれるでしょう」と期待している。～

第一回の階段コンサート「市民広間演奏会」から約20年の時を経て、現在の舞台が整えられたという事になります。始まった当初は生の演奏を聴く機会が限られていた時代。そして昭和のモーレツ?! サラリーマンをはじめ、皆、コンサートに足を運ぶ機会は少なかったのではないのでしょうか。そんな中このランチタイムに行われる「市民広間演奏会」は、みなさんにとって、待ち遠しい時間だったと思います。

～昼休みに来庁された市民のみなさんをはじめ、市役所周辺の会社にお勤めのかたがたにしばし町の騒音を忘れていただくため、また、ふだんの演奏会などへおでかけいただけないかたがたのためにも、ナマの美しい演奏に耳をかたむけていただけたらとおもい、この演奏会を開いています。これも市内に在住の音楽家のみなさんの深いご理解とご協力によるもので、市民のみなさんとともに出演されているかたがたに深く感謝申しあげるとともに、今後のご活躍をお祈りしたいと思います。どうか、きょうの演奏会が心楽しいひとときとなりますよう期待します。～

先程の飛鳥田市長の挨拶はこのような文章で締めくくられていました。飛鳥田市長の思いと佐藤先生をはじめ、「市民広間演奏会」の演奏家の思いがこのように続き、バトンが渡され、現在に至っているのですね。街の音と人の動きを肌で感じながら弾ける、コンサートホールでは味わえない魅力的な舞台。それが市庁舎でのコンサートの醍醐味ではないでしょうか。

※¹横浜スタジアムのある場所に1977年まで野外音楽堂がありました。

※²朝倉蒼生先生<ソプラノ>2006年より2010年まで横浜市民広間演奏会会長。

※³2020年より市庁舎の移転により新しい舞台での演奏会が予定されています。